

答申（案）（保健・福祉・医療専門部会）

当該分野においては、保健、福祉、医療に関する施策が示されている。高齢化が進行する状況下においては、社会を支える元気な高齢者を増えることが重要であり、そのために、市民一人ひとりが日頃の健康管理を強く意識し、行動することが何より重要である。これについて、次のように提言する。

地域で暮らし、地域で支えるまちをつくるためには、自分たちの地域は自分たちで何とかしようという意識が働くことが重要であり、福祉の圏域を、従来よりも小さな圏域で再構築することが適当であり、小学校区をその圏域として位置付ける必要がある。高齢者福祉については、介護予防に重点が置かれがちとなるが、元気な高齢者の健康づくりにも重要な取り組みである。子どもの貧困対策については、地域と連携した取り組みをすすめるとともに、長期的な視点に立ち取り組みを継続することが重要である。

健康づくりについては、成人の健康づくりに偏ることなく、次世代の健康づくりに対する取り組みも重要である。その場合、福祉や教育の分野等との連携を強化する必要があるため、行政の各分野に横串を通し、それぞれ施策が連動して機能することが重要である。

既存の計画を基礎に基本計画が構成されているが、国の指針においては、市の計画を大幅に上回る目標を設定している分野もあり、市の計画を先取りしていくような取り組みを記載しておくことも重要である。

上記の内容も含めて、個別に列挙すれば次のようになるので参考にされたい。

◇9 地域のみんが、支え合うまちをつくる

- ・自分たちの地域は自分たちで何とかしようという意識が働くことが重要であり、自治会が組織されているエリアと未組織のエリアをどうやって埋めていくかを考えると、福祉の圏域を小学校区を単位として位置づけることを検討してもらいたい。
- ・「地域見守り隊」の結成を推進する取り組みについては、評価するものの、小学校区の中でいくつ作れるか等、専門職も入って議論していく必要があり、市全域での数だけの問題ではなく、行政の各分野の連携体制の強化とともに中身が伴った圏域の構築が必要である。

◇10 小学校区などの身近な地域の中で、高齢者がいきいきと暮らせるまちをつくる

- ・高齢者が住まいを新しく探すときに困難を生じている現状がある。高齢者の住まいを別建てで取り込まれることを検討してもらいたい。
- ・介護予防に関する事業への参加人数を指標として設定しているが、元気高齢者の健康づくりも重要なので他の指標の設定も検討してもらいたい。例えば、仕事をしている、ボランティアをしている、地域活動に参加している等の高齢者が元気に社会とかかわっている指標が考えられる。
- ・在宅介護に向けた取り組みの方針となっているが、それと連動した指標の設定を検討してもらいたい。

◇11 障がいのある人が安心して暮らし、働けるまちをつくる

☆第3回専門部会で確認☆

◇12 子どもの貧困対策をすすめて子ども達が夢を持って成長できるまちをつくる

- ・「子ども達が夢をもって成長できる」ことを実感できる指標の設定を検討してもらいたい。例えば、母子家庭では、欠食をなくすことを目的として「朝食をとる子どもの割合」などが考えられる。
- ・生活保護世帯だけの問題ではなく、何らかの要因で貧困に位置づけられる子どもに対する取り組みを図る指標の設定を検討してもらいたい。
- ・内閣府の補助金を活用する取り組みである「子どもの貧困をテーマとした地域連携」から補助金終了後の取り組みを継続する「新たな社会資源の創出」へつなぐ道筋を明確にしてもらいたい。

◇13 市民一人ひとりが健康づくりを実践するまちをつくる

- ・喫煙対策においては、国が先行し受動喫煙を0にする方針を示しているため、市の既存の計画を先取りしていくような取り組みを検討してもらいたい。
- ・成人だけでなく、次世代の健康づくりの視点を盛り込むことを検討してもらいたい。

◇14 市民一人ひとりがこころの健康を維持することができるまちをつくる

- ・県の施策（県では中学生向け副読本を作成している）との連携など取り組みを強化するとともに、これらの実施結果に対する指標の設定を検討してもらいたい。
- ・アルコール依存症やうつ病の早期発見のため医療機関の看護師の研修機会などを指標として設定することを検討してもらいたい。
- ・障がいを持っている等生きづらさが社会から追い込まれ自殺に繋がる要因となるため、それらを理解するための取り組みを検討してもらいたい。
- ・こころの健康、多様性を理解することやそれを支えるゲートキーパーの役割等の普及啓発活動の充実など取り組みの強化を検討してもらいたい。
- ・自殺未遂者は自殺者の10倍いると言われている。消防局や医療機関と連携し、自殺未遂者を把握し、対策を進めることとあわせて、それに対する指標の設定も検討してもらいたい。

◇15 親と子が地域の中で共につながり健やかに暮らせるまちをつくる

- ・指標については、乳児期と幼児期では課題が異なるため、受診率だけでなく、健診期ごとの課題を指標として設定することを検討してもらいたい。例えば、虫歯、発達障害、親子の関わり、貧血等に関する指標が考えられる。
- ・子育て世代包括支援センターの設置について、情報を集約する仕組みや保育所との連携に関する取り組みを検討してもらいたい。
- ・子育て世代包括支援センターに関する指標の設定を検討してもらいたい。

#### ◇16 地域医療の充実したまちをつくる

- ・市立病院の建て替えは、市民の関心も高いと思われるため、取り組みの方針への記述を検討してもらいたい。
- ・紹介率は達成しているが、今後も維持していけるよう、医療体制の確保等に取り組んでももらいたい。
- ・市立病院として医師会と連携して紹介率を上げてきた取り組みをみえるように現状と課題への記述を検討してもらいたい。

#### ◇17 適切に救急医療につなげるまちをつくる

- ・保健所や医師会と連携して子どもの事故予防（誤飲等）啓発や事故が起きた時の対処方法等の対策を検討してもらいたい。
- ・#8000の利用状況等を指標として設定することを検討してもらいたい。
- ・救急車を利用している方の年齢区分等の分析を「現状と課題」への記述を検討してもらいたい。
- ・予防救急に関するリーフレットが各世帯に届く等有効に活用される仕組みを検討してもらいたい。
- ・外国人観光客に向けた多言語対応等の啓発を検討してもらいたい。
- ・社会福祉協議会では有用情報を記載した緊急医療キットの普及に取り組んでいるが、社会福祉協議会だけでは限界があるため、関係機関と連携して健康に不安のある方への救急医療の対応等の取り組みとして検討してもらいたい。

#### ◇18 医療費の適正化を進めるまちをつくる

- ・商業施設やイベント会場で健診を受けられる仕組みやポイント付与等を検討してもらいたい。
- ・医療に税金が投入されていることの啓発の強化を検討してもらいたい。
- ・小学校等において副読本（次世代の健康づくり副読本）や食生活推進員を活用した健康づくりをすすめ、子どもからの会話を通して親世代に呼びかける取り組みを検討してもらいたい。
- ・肝疾患の主な原因となっているアルコールの多量摂取について指標の設定を検討してもらいたい。
- ・大腸がんの健診は有効性があるが、有料健診となったために受診率が下がった経緯がある。有効性が示されている取り組みについては、しっかりと取り組んでももらいたい。

#### ◇19 衛生的で快適な生活環境を守るまちをつくる

- ・現状と課題の記述が淡白である。例えば、食中毒の発生状況等、現状と課題を的確に捉え、記述に厚みを持たせることを検討してもらいたい。
- ・指標として設定した営業施設の目標監視件数では、営業施設を全て監視するという目標であるが、目標値の具体的な設定が難しければ、文言による目標設定等表現を検討してもらいたい。

◇20 健康危機管理体制が整ったまちをつくる

- ・結核に対する予防対策や啓発活動の取り組みを記述するとともに、それらの活動指標の設定を検討してもらいたい。
- ・災害時（大雨による土砂崩れ）に保健所のスタッフが被災された方の PTSD のフォローを行った取り組み等を現状と課題に記述し、健康危機管理体制を整える取り組みについても具体的例を挙げて（災害医療コーディネーターの配置など）取り組むことを検討してもらいたい。
- ・中核市である那覇市と沖縄県との役割分担を整理することを検討してもらいたい。
- ・性感染症に関する現状を捉えた指標を検討してもらいたい。